

# 残材で危険物保管庫

## 環境経営推進 梱包資材削減も

### アルミ・ステンレス加工の坂口製作所

坂口製作所（本社・大阪市西成区）の坂口清信社長は23日、大阪市内で開催された「エコアクション21普及・促進シンポジウム」において、自社の取り組みについて発表した。エコアクション21は環境省が定めた環境経営システム・取り組み・報告に関するガイドラインに基づく制度。同シンポジウムには110人が参加した。

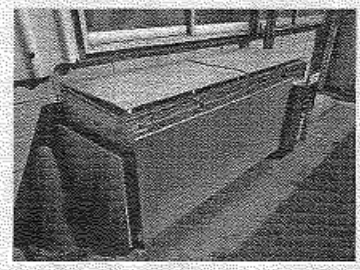
境活動などについて説明した。環境活動は、まずは模倣から始めたという。和歌山工場ではアルミ残材で危険物保管庫＝写真＝を製作した。続いて搬送用容器（通い箱）を製作することで養生用梱包資材の削減を図り、工場内に節水型トイレも設置した。QCサークルは事務所内の点灯を間引きし、食堂拡張工事の際には照明の一部をLED化した。今後は、工場照明のLED化に取り組み予定だ。

クラップ価値の向上などに努めたい。社内備品を自社で製作し、残材の有効活用も図る」（坂口社長）。

今年2月、環境省などが主催する「第20回環境コミュニケーションショウ大賞」において、同社は「環境活動レポート、未来のこともたちのために」で優良賞（第20回環境コミュニケーション大賞審査委員会）を受賞している。

坂口製作所はアルミ・ステンレスに特化した板金・溶接・組み立て加工業者で、和歌山工場を持つ。従業員数は85名で、年商が9億5千万円。主要製品は工業用アルミトレイ、信号器具箱で、N70系新幹線や製菓・食品メーカーのラインなどに使われている。

坂口社長は「約7年 針および実施体制図」前に客先から環境への「環境目標」「環境活動計画の取組結果と評価」「地域活動への協力」「社内での環境活動への取り組み」を切り出した。「環境方針」を公表する坂口社長



「主素材のアルミニウム・ステンレスは残材を有効利用している。素材の歩留まり向上、加工ミスの削減、材料別分別回収の徹底によるス

鉄鋼新聞  
2017(平成29)年6月29日  
5面(関西版)